

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年8月7日（月）

2 確認箇所

A排水路移送経路（K1北、K1南、H1、H1東タンクエリア及びH9-1～3雨水回収タンク）

3 確認項目

A排水路移送経路の状況

4 確認結果の概要

東京電力福島第一原子力発電所の主な排水路には、放射線モニタ及び電動ゲートが設置されており、排水路の放射線濃度が基準を超過した場合は、遠隔でゲートを閉止し、排水路に流入した水をタンクエリアの堰内等に移送することにより、海への流出を防止することとしている。

大きな地震等により、ALPS処理水測定・確認用タンク（K4タンクエリア）の連結管等が破損し、ALPS処理水が漏えいしK4タンクエリア外堰を越流する事象が発生した場合には、越流したALPS処理水がA排水路に流入する可能性があることから、A排水路の電動ゲートが閉止された際の排水路の水の移送経路を確認した。なお、6月22日に、ALPS測定・確認用タンクにおける異常時発生時の機動的対応訓練の状況を現地確認した際に、A排水路のゲート閉止及びK1北タンクエリア堰内への水移送の状況を確認していることから、今回は、K1北タンクエリア以降の移送経路の状況を確認した。（図1）（前回確認日：[令和5年6月22日](#)）

- ・ A排水路の水は、K1北、K1南、H1東タンクエリアなどの内堰を經由して、プロセス主建屋（PMB）の地下に移送される経路になっており、本日は、K1北タンクエリアからH1東タンクエリアまでの移送経路を確認した。（写真1）
- ・ 移送元のタンクエリアの集水ピット中に、水中ポンプが設置されており、当該水中ポンプと耐圧ホースにより移送先のタンクエリアの内堰内又は内堰内に設置された仮設ヘッダに移送される経路になっていた。（写真2）
- ・ タンクエリア間の移送配管（耐圧ホース）の大部分は、保温材で覆われていたが、一部に保温材の劣化や剥がれが見られた。（写真3）
- ・ タンクエリア堰内を經由してPMBに移送する経路とは別に、K1北タンクエリア内の移送配管から分岐し、直接H9-1～3雨水回収タンクヘッダに接続しているPE管が敷設されていた。（写真4）

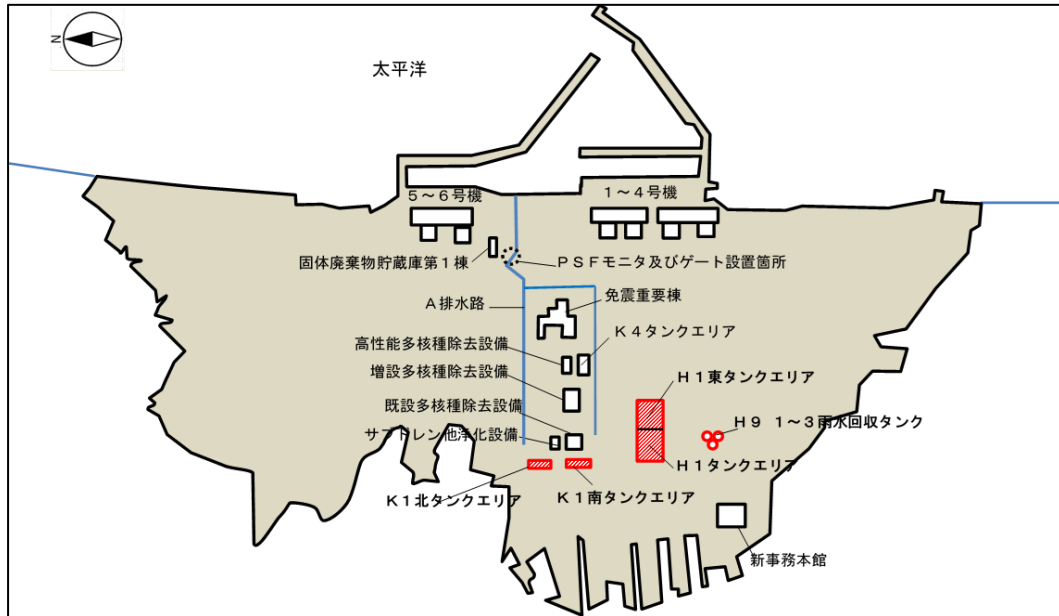


図1 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1) K1北タンクエリア外観 (南側から撮影)



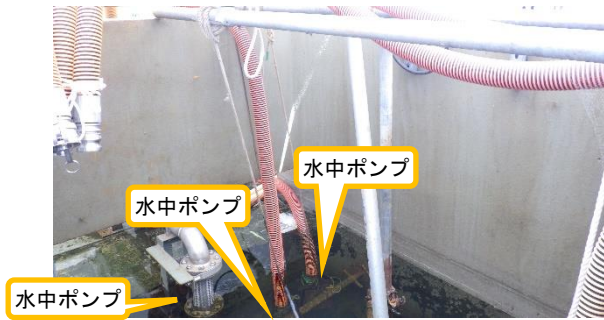
(写真1-2) K1南タンクエリア外観 (北側から撮影)



(写真1-3) H1タンクエリア外観 (北東側から撮影)



(写真1-4) H1東タンクエリア外観 (南東側から撮影)



(写真 2 - 1)
K 1 タンクエリア南側の集水ピットの状況



(写真 2 - 2)
K 1 北タンクエリアからK 1 南タンクエリアへの移送配管(耐圧ホース)の状況



(写真 2 - 3)
H 1 東タンクエリア仮設ヘッダへの接続状況



(写真 3 - 1)
移送配管(耐圧ホース)の敷設状況
① (K 1 南タンクエリア南側付近)



(写真3-2)
移送配管（耐圧ホース）の敷設状況
②（H1東タンクエリア北東側付近）



分岐した直接移送配管

(写真4-1)
K1北タンクエリア北東側の移送配管（PE管）の状況

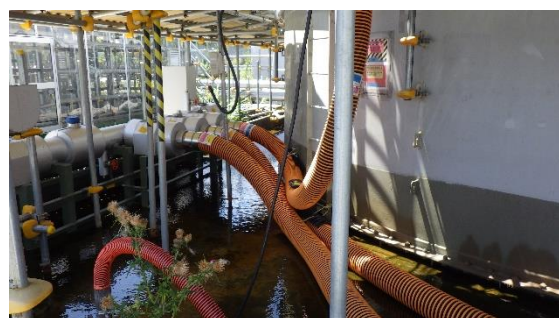


移送配管（PE管）

(写真4-2)
直接移送配管（PE管）の敷設状況
（K1北タンクエリアを西側から撮影）



(写真4-3)
H9-1～3雨水回収タンクの外観
（北東側から撮影）



(写真4-4)
H9-1～3雨水回収タンクヘッドとの接続状況（北側から撮影）

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。